

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取り組み事例

事務所名	県南教育事務所	学校名	奥州市立南都田中学校	TEL	0197-46-2423
------	---------	-----	------------	-----	--------------

言語活動を通じて生徒の主体性を高める取組

1 ねらい

各種調査結果の分析から、本校生徒の課題は、コミュニケーション能力の低下、主体性のある学びの習得である。そこで、「言語活動の充実」を全学年・全教科で取り組むことにより、生徒の主体性を高め、課題解決につなげたいと考え、以下の取組を行っている。

2 生徒の実態

本校の生徒は、明るく素直で、何事にも前向きに取り組む生徒たちである。本校の学校教育目標は「自ら考え 真心をもって 実践する人間」であり、知・徳・体の調和のある人間形成を目指している。その中での「自ら考える人間」は、自分の考えを深めるだけでなく、自分の考えを伝えるという資質を有することも必要である。本校生徒の課題の1つとして、自分の考えを積極的に発言できない、場に応じた話し方が身につけていないということが挙げられる。今年度の全国学力・学習状況調査の生徒の意識調査の結果でも、「自分の考えを話したり書いたりする」「意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫する」ということを苦手だという生徒の割合は多い。教科指導だけでなく、教育活動全般を通じて自分の考えを自主的・主体的に発言する姿勢を生徒に身につけさせることにより、生徒の学習意欲の向上につなげたいと考えている。

3 具体的な指導実践・取組

(1) 各教科での言語活動の実践

国語	・「詳細な内容の読み取り」「情報を収集して書く」の項目に注意した学習活動
	・作者の問題提起や主張、文章や資料の読み取り
	・少人数（4人グループ）で学び合う活動
	・新聞を活用した条件作文練習
数学	・問題演習での生徒同士の学び合い
社会	・資料を読み取り、自分の言葉でまとめ表現させるワークシートの活用
	・グループ内での話し合いや作業を多く取り入れた学習活動の工夫
英語	・Basic Dialogの暗誦（全員実施）
	・音読の強化（各ページ最低でも7回以上は音読）
	・パフォーマンステストの実施
理科	・自分の考えをより正確に伝える発表の場面の設定
実技 教科	・グループ内での話し合いの場面の設定 (音楽の例) 曲のイメージを話し合う、表現の仕方の探究

## (2) 具体的実践例

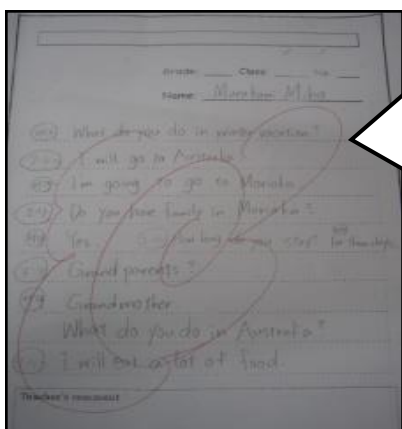
### ① 国語科における「新聞を活用した条件作文」の取組

新聞の記事、写真、図などを資料として取り上げ、条件作文を繰り返した。新聞から必要な情報を正確に読み取り、それについて自分はどうかどう行動するのかなどを考えさせながら、文章をまとめる訓練の機会とした。使用する新聞記事についてはいろんな分野の記事を扱うよう心掛け、生徒の書いたものは必ず添削しコメントを書き添えた。

(条件作文の例)

- ・「いろは歌」最古の全文の記事を取り上げ、第一段落には内容の要約、第二段落には、自分の感想を記入させた。
- ・他の中学生の地域でのボランティア活動の記事を取り上げ、第一段落にはそのことに対する自分の感想、第二段落には自分だったら地域のためにできることは何かを記入させた。

### ② 英語科における「パフォーマンステスト」の取組



◎ALT が入る場合には、1対1での英会話の時間を設けている。

- ① カードを1枚引く。(冬休み、将来の夢、勉強、趣味、食べ物等)
- ② カードに書かれている話題で1分間英語で会話する。
- ③ 終わった生徒は、その話した内容を英作文する。



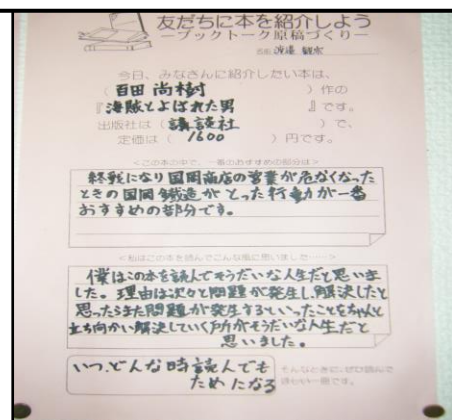
◎買い物(靴を買う)場面での対話文

- ① ペアで店員、客役を決める。
- ② 条件提示  
(別の商品を購入する、試着する、商品の問題点、問題に対する要求を必ず入れることを伝える。)
- ③ ペアで対話文の作成をする。
- ④ 次時に暗記したものを全体の前で発表する。  
聞き手はリスニングで内容を聞き取る。  
あるいは、教師側が示した評価観点で評価する。
- ⑤ ALT がいる場合はそれぞれのペアにコメントをしてもらう。

## (3) 教科以外での生徒による主体的な取組

### ① 朝読書の実施

本校では、全校で朝読書に取り組んでいる。図書委員会では、「目指せ！読破目標冊数15冊！」という目標を掲げ、全校生徒の読書に対する意識の高揚に努めている。読書量の個人差はあるが、朝読書の10分は、どの生徒も真剣に活字にふれる機会として大切な時間となっている。また、国語科や図書委員会による本の紹介や、長期休業前に、生徒自身が薦



める本の紹介を行うなど、読書活動の推進を図っている。

## ② 「We Can 運動」の実施

「We Can 運動」という名称で、授業前の5分間を、前時の復習や学習準備の取り組みを行っている。学芸委員会と連携し、「We Can 運動」の点検活動を実施するなど、わずかな時間ではあるが、授業前の大切な時間という意識付けを図っている。

### 《「We Can 運動」の具体例》

国語	漢字の読み方練習・教科書の本文読み
数学	復習問題の練習
社会	学習プリントによる復習
理科	重要語句の確認
英語	リスニング練習・教科書の本文読み

## ③ 学習クラスマッチ

生徒会の学芸委員会では、年間を通じて「学習クラスマッチ」に取り組んでいる。各学年に応じた問題を作成し、80点以上を合格とし、合格率で学級の順位をつけ、競い合うという取組である。その問題の一部は、定期テストにも出題されるので、全生徒が意欲的に取り組んでいる。

### 学芸委員会の会報に結果を掲載し表彰

通過率 順位	項目	通過 率(%)	合格 者数	不 合格 数	受 験 者 数	欠 席 者 数	平均 点	満 点 者 数	満 点 率	表彰学級
2	1A	87.0%	20	3	23	1	86.7	4	17.4%	学級別通過率の部(%) 1位 1B 95.8%
1	1B	95.8%	23	1	24	1	95.4	12	50.0%	
3	2A	64.9%	24	13	37	2	78.2	12	32.4%	
5	3A	34.8%	8	15	23	1	68.5	0	0.0%	
4	3B	63.6%	14	8	22	1	75.7	2	9.1%	

第3回学習クラスマッチ(社) 最終集計結果										
通過率 順位	項目	通過 率(%)	合格 者数	不 合格 数	受 験 者 数	欠 席 者 数	平均 点	満 点 者 数	満 点 率	表彰学級
1	1A	87.0%	20	3	23	1	93.7	14	60.9%	学級別通過率の部(%) 1位 1A 87.0%
4	1B	79.2%	19	5	24	0	87.5	10	41.7%	
3	2A	84.6%	33	6	39	0	91.2	25	64.1%	
1	3A	87.0%	20	3	23	1	92.6	10	43.5%	
5	3B	72.7%	16	6	22	1	78.4	7	31.8%	1位 3A 87.0%

## ④ 新聞の活用

意図的に、新聞記事を活用した校内の掲示の工夫を試みている。短学活では今日のニュースの内容と自分の感想等を発表する場を設けて、新聞やニュースに関心を持たせる取組を進めている。

## 4 成果

- ・「学びの共同体」の理念に基づいた4人グループ、ペア学習などの学習形態を設定することにより、コミュニケーションを図りながら、学び合う姿勢や積極的に発表する姿勢がどの教科においても見られるようになった。
- ・条件作文の練習やパフォーマンステスト等を繰り返すことにより、各種テストにおける書く活動に対する抵抗が少なくなり、以前より無回答が減少している。
- ・「We Can 運動」は授業の準備、導入として大切な位置付けとなっている。
- ・校内の掲示物を読んで疑問点を質問したり、自分で調べたりする生徒が見られるようになった。
- ・新聞を活用した学習活動を取り入れたことにより、社会や身の回りの出来事に関心をもち、生徒が自主的に新聞、ニュース等での情報収集を心掛けるようになった。
- ・まだまだ不十分であるが、様々な研修会、校内研究会等を通じ、職員の共通理解、自己研鑽を図りながらこれからも生徒の学力向上に取り組んでいきたい。

### 廊下の掲示例

